

肥満に伴う睡眠時無呼吸症候群に対するマンジ ャロの効果は肥満手術の同等

肥満を伴う閉塞性睡眠時無呼吸症候群（OSA）を有する成人を対象に、GLP-1/GIP 受容体作動薬であるチルゼパチドと肥満手術（BMS）を比較した結果が報告されました。

1 万 269 例ずつを解析した結果、主要アウトカム（死亡、心血管イベントなどの複合）および全死亡、心血管イベントはいずれも両群で有意差を認めませんでした。

一方で、腎イベントはチルゼパチド群で有意に低下しており、チルゼパチドは非侵襲的手段として手術と同等の臨床転帰を示し、特に腎保護効果が強調されました。